



2018.3.8 シニア自然大学校
研究部 研究・活動報告会

森と海の自然科

2018年度活動報告

森と海の自然科

山田 春子・小松雅之

発表内容

- 森と海の自然科 理念と取り組み
- 運営体制と主な活動
- 各グループの活動実績
 - ・森／源流グループ
 - ・里・川グループ
 - ・海グループ
 - ・社会貢献グループ
- 今年度活動まとめ
- 来年度に向けて

森と海の自然科 理念

- 理念

「森と川と海」のつながりに感動し、自然と人のつながりを学び研究する。

ふるさとの「森と川と海」との共生を積極的に考え、未来に伝える。

森と海の自然科 活動目標

活動目標

(研究)「森・川・海」の生態系のつながりから、自然の恵みをもたらすことを学習し研究する。

(提案)「森・川・海」が影響しあって形作る自然について明らかにし、自然の恵みの持続的な利用と付き合い方を提案する。

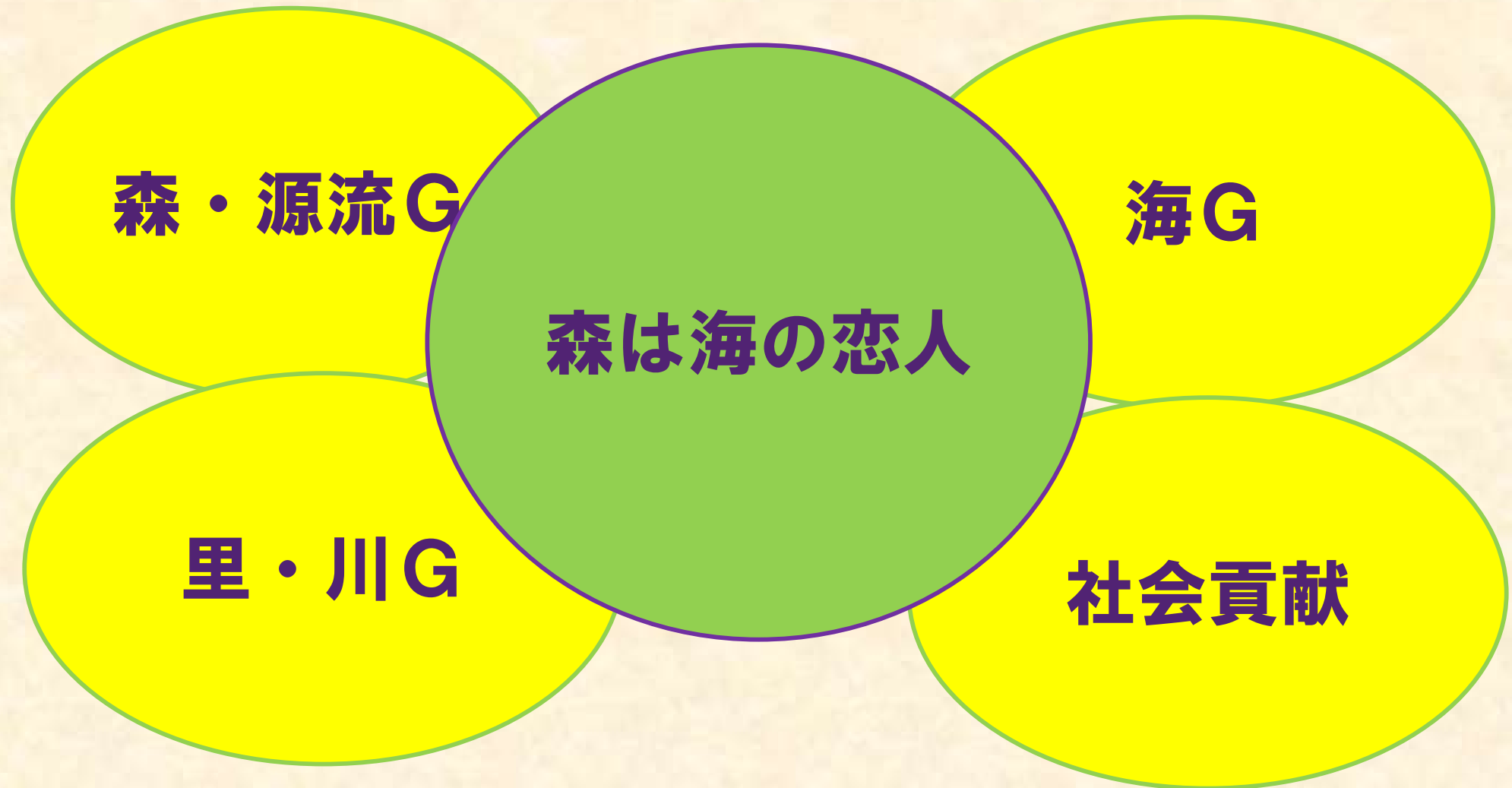
(環境教育)フィールド研究の成果を基礎に持続可能な社会を支える人づくりの基礎となる資料を生み出す。

(社会貢献活動)「森・川・海」をフィールドにした「体験学習」とおして地域の親子を対象とした体験・交流型環境学習の社会貢献活動に取り組む。

運営体制

- ・ 2008年発足（11年目） 在籍人数；26名
- ・ 活動日；毎週木曜日
- ・ テーマ別に4グループを構成
各グループが月1回、活動の企画を担当
講座部主催の「海の講座」には毎年参加
- ・ 森・源流グループ 源流巡り・散策・水質調査
- ・ 里・川グループ ダム水系・流域の街散策
- ・ 海グループ 生き物調査・釣り
- ・ 社会貢献グループ 活動日は休日が多い

運営コンセプト



森・源流グループ 活動報告-1

活動のねらい

源流域に降った一滴の雨は谷筋の水を集めやがて大河となり海に注いでいく。大河となって海に注ぐ河川の源流域を訪ね、森川海のつながり(連環)を学ぶ。

具体的な活動内容

- ★淀川・木津川・大和川や琵琶湖等に流入する河川の源流域を訪ね、川から海へのつながり(連環)を学ぶ。
- ★源流域の水質調査を実施する。次年度は一つの河川の上流、中流、下流域の水質調査を進める。
- ★今年度から各自の体調を考慮して、2コースで実施できるような計画に取り組む。

森・源流グループ 活動報告-2

2018年度活動計画・実績

- 2018年4月 信貴山・高安山 健脚組・一般組
- 5月◎金剛山ハイキング 歩き組・ロープウェイ組
- 6月 赤目48滝巡り＋長坂山 滝巡り組・＋山歩き組
- 7月 柳生街道ハイク 組分けなし
- 8月◎笠置山と布目川の甕穴 組分けなし
- 9月◎六甲・油コブシ 歩き組・ロープウェイ組
- 10月 権現山～打見山 健脚組・一般組
- 11月◎菩提滝・沢ノ池～紅葉の高雄 組分けなし
- 12月 飯道山～紫香楽宮跡ハイキング 組分けなし
- 2019年1月 愛宕山の雪山体験 組分けなし
- 2月◎湖南アルプスの太神山 組分けなし
- 3月 加西アルプス(善防山・笠立山) 組分けなし

◎；水質検査あり 青字は天候のため中止

森・源流グループ

活動報告-3

活動写真

赤目48滝にて



愛宕山にて



森・源流グループ 活動報告-4 活動写真

権現山～打見山(湖西)にて

山頂から琵琶湖を望む



倒木の凄さ



上部が引きちぎられた倒木



倒木の中を進む



森・源流グループ 活動報告-5



水質検査の記録

記録者名 (李三 文作)

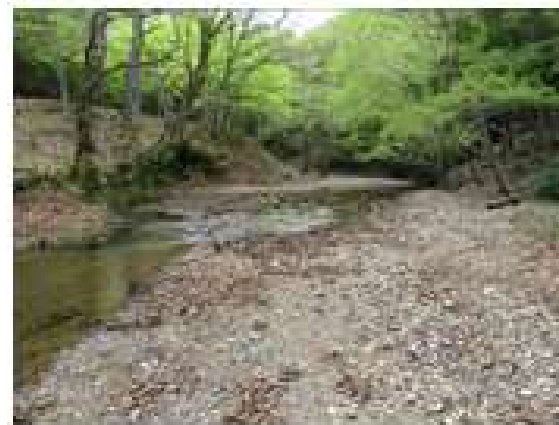
1:日時 2018年4月26日 採水時刻 10時30分

2:天候 晴れ、曇り、雨、雪、その他 ()

3:温度 気温 16℃ 水温 13℃

4:採水場所 日野川の支流である耶津咀川の
上流部の川幅の広がった河原

5:気づいたこと 上流部であるが林道沿った川のため明るい



6:測定結果

・COD 2mg/l (2) mg/l

・アンモニウム態窒素 0.2mg/l (0.2) mg/l

・亜硝酸態窒素 0.2mg/l (0.005) mg/l

・硝酸態窒素 2mg/l (0.2) mg/l

・リン酸態リン 0.2mg/l (0.05) mg/l



試薬による検査

今後の活動について

森の現状（山の変化）

- ・ 台風による倒木の多発を目のあたりにする
根の浅い木が多い、針葉樹

今後の活動に向けて

- ・ コース設定の工夫
科員の体力差の拡大し全員参加困難に
- ・ 水質調査の充実
ポイント数の拡大、環境などの影響確認

里・川グループ 活動報告-1 活動方針

森と海をつなぐ川に

人と自然が織りなす歴史と文化を求め

川と里の恵みを探求する

治山・治水

利水・水運

テーマ

自然・環境

歴史・文化

里・川グループ 活動報告-2 年間実績2018年度

治山・治水

湖東・日野川ダム & 蔵王ダム見学
大和川亀の瀬地滑り資料館見学
守口太閤文禄堤

利水・水運

針江生水の郷見学
北淡海・丸子船の館見学
吉野川分水(十津川・紀の川総合開発事業)
下湊頭首工 & 東西分水工
東部幹線水路

自然・環境

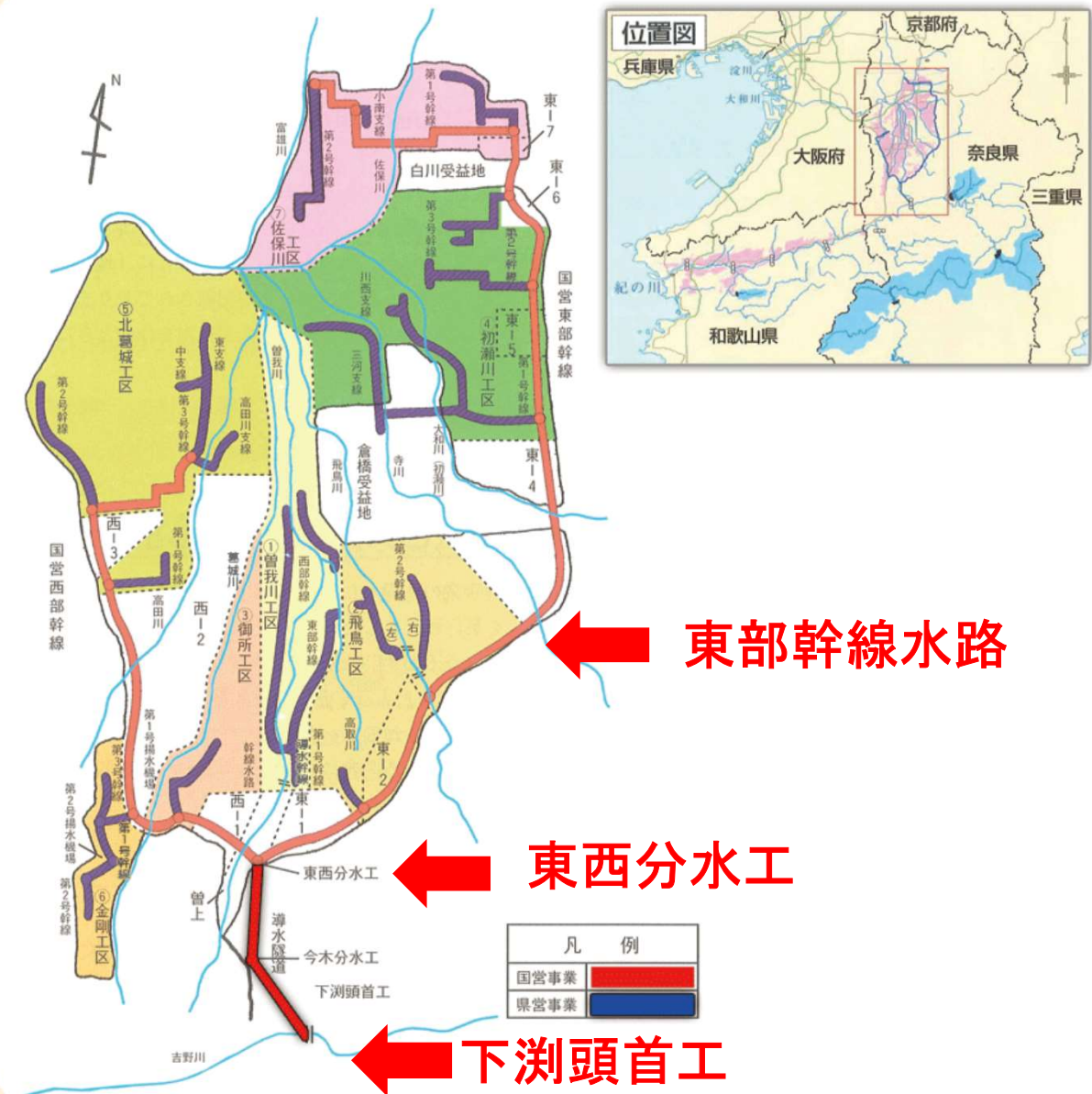
鎌掛谷ホンシャクナゲ群落
高井田横穴群集墓見学
マキノ高原メタセコイア並木
明日香万葉展望台
猪名川田能遺跡見学

歴史・文化

キトラ古墳壁画青龍見学
高松塚古墳壁画修復展見学
柏原資料館見学
竹生島拝観と長浜市内
多武峰談山神社参拝と寺川源流
伊丹みやのまえ文化の郷見学

里・川グループ 活動報告-3 事例・吉野川分水1

大台ヶ原(奈良県)
に降る雨は**吉野川**(紀の川)となっ
て和歌山県へと
流れ出る。
降水量の少ない
奈良盆地に**吉野川**
の水を引こう
という江戸時代
からの願いが実
現した



里・川グループ 活動報告-4 吉野川分水2

十津川・紀の川総合開発事業 & 国営十津川紀の川土地改良事業、 国営大和紀伊平野土地改良事業等

紀の川水系の貴志川
に山田ダムを建設。
吉野川に津風呂ダム
と大迫ダムを建設し
、水源を確保下淵頭
首工で奈良盆地への
取水をする

吉野川分水最大10.98m³/s

十津川に**猿谷ダム**を
建設し太平洋に流れ
ていた**新宮川水系**の
水を大和丹生川経由
で**紀の川用水**に活用
する

紀の川水系へ最大16.7m³/s

十津川・紀の川総合 開発事業模式図



里・川グループ 活動報告-5 吉野川分水3

吉野川分水の取水口は大淀町の**下湊頭首工**



手前左の水路が吉野川分水取水口



左が上流側



里・川グループ 活動報告-6 吉野川分水4

奈良盆地へ導水する東西幹線水路が分かれる**東西分水工**



上流側(南)から見た東西分水工。右上方向が東部幹線水路、左に分かれているのが西部幹線水路



東部幹線水路
(明日香村)



吉野川分水の上流側導水トンネルを見る。
下湊頭首工から東西分水工まで
隧道で分水嶺を越えてくる

海グループ 活動報告-1

年間の活動2018

2019.3.8 海G リーダー前野

グループ総勢10名、♀6名♂4名で頑張っています。活動は3つのテーマに分かれています

1. 海辺の調査活動 2. 講座部海の講座支援活動 3. 海に親しむ体験活動

1.海辺の調査活動

- ・＜国土交通省支援主催沿岸環境NPO20数社参画＞の大阪湾生き物一斉調査に
科創立2008以来11年間継続し調査活動を行っています。担当は近木川河口
干潟です、貝塚市自然遊学館様ご指導により実施しています

11年累計実績 採取種255種

貝類78 海藻25 カニ17 魚16 海浜植物45 鳥19 その他55

毎年100種類弱の種を採取していますが一番多いのは貝類です



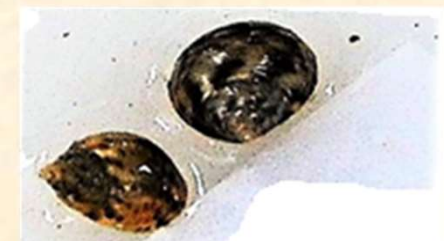
近木川河口干潟での調査スタートです



アサリ (近畿地方では天然はなさそうです) チチュウカイミドリガニ (要注意外来生物)



ウミニナ (準絶滅危惧種)



タマキビ (♂の同定を学びました)

海グループ 活動報告-2 海辺の調査活動

・その他の海辺の生き物調査活動

男里川河口干潟 2019/3(予定)

近年大雨台風による増水と関連する防災工事等により、数年前より調査していた左岸河口干潟域は陸地化が激しく、一昨年より右岸での調査活動に変更しました。が、調査分析ができる状態になっていません

・海浜漂着物の調査活動

友ヶ島 2018/6 成ヶ島 2018/1

調査活動スタートしたばかりでまだ分析できる結果が得られていません、今後も継続予定です。

注) 2019海の講座ではプラスチックの海洋汚染を学びます。



友ヶ島助松海岸の漂着物



瀬戸内海中のゴミが集まる成ヶ島の案内図

海グループ 活動報告-3 海の講座支援活動

第5回講座2018/9～2019/2 6回 課外活動複数回 企画・監修・講師：向井宏北大名誉教授

2013年に(森海)独自でスタートした向井先生の海の講座は2014年より講座部公開講座としてスタート、毎年40-50名の受講生を集めています、
2018年度のテーマは海の生き物(軟体/甲殻類/環形/魚/刺胞動物)の生残り防御戦略、最終回の海藻・海草の講座は目を見張るような成果でした。

加えてこの講座の注目点は向井先生ご尽力による遠出の課外活動です



みさご丸 (大黒島行エピソードはもういません)

2018/8 厚岸大黒島観察会 (北大臨海実験所練習船利用)

2018/10 伊豆戸田深海魚観察会と深海魚水族館見学
(東海大清水水族館/沼津深海水族館)

戸田深海魚漁師民宿では必ず**タカアシガニ**を食べます



深海鮫などの各種深海魚



かわいい！ゴカクボシヒトデ



3人に一杯タカアシガニを食べました

海グループ 活動報告-4 海に親しむ体験活動

～兎に角海のそばで楽しめました～

2018/4 潮干狩り近畿で一番早くオープンする形的海岸へ、貝毒の影響は比較的少なく安全です、アサリは熊本産です
(今年は大阪湾では2月から貝毒が猛威を振るっています、要注意です)
2018/5 明石大橋ブリッジワールド体験、目が回りそうでした

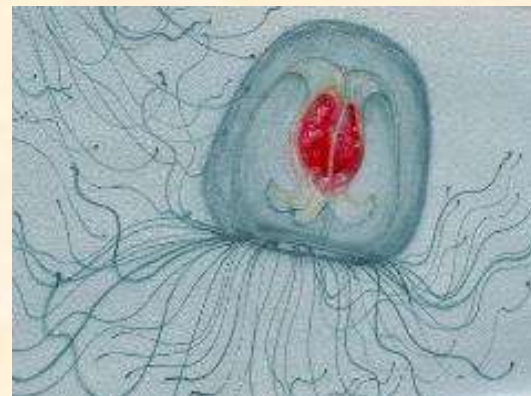


2018/6 芦屋浜カヌースクール体験です、陸上では沈みませんでしたが海に出たらすぐ約2名が楽しそうに海中体験へ

2018/8 南芦屋浜サビキ釣り、8月までは良く釣れたんですが台風がフェンスを全部壊していきました、今は立入禁止です、大阪湾では沿岸商業施設も含め釣り公園は壊滅、四面楚歌の状況です



2019/2 不老不死のベニクラゲの勉強に白浜へ、
苛められるとか劣悪環境に遭遇すると突然団子状に変化、根を伸ばし岩などに着生、誕生ポリプに変化、また新しい人生が始まります、奇跡です



社会貢献 活動報告-1 2018年度活動実績

・東大阪フレスポイベント

実施日:2018年4月～2019年3月 毎月第2日曜

内容:ショッピングセンターの委託を受け、子供向けに毎月
テーマを決め、簡単な工作づくりを提供

・大阪東幼稚園ニコニコパーク

実施日:5月と11月の土曜日 半日の幼稚園イベントの支援

内容:野草天ぷら、野草茶、野草の説明など。秋の11月は
むかごご飯、どんぐりクッキーが追加

・小学校ふれあい教室 実施日:11/22(木)

内容:東大阪・縄手北小学校で出前学習会(1年と2年)

当日雨のため小学校体育館で実施。テーマは自然工作と
水の森川海の循環を分かりやすく解説

・大学祭 11/3(金) 万博記念公園 万博ネイチャーラリーで参加

・文化祭 12月 天満橋エル大阪9階ギャラリーに押し藻絵他を展示

社会貢献 活動報告-2 東大阪フレスポ・イベント

- ・ショッピングセンター内の一角で毎月第2日曜に実施
- ・多い月で100人、平均50～60人が体験

・各月のテーマ

- 4月：新聞紙で花ブローチ
- 5月：チリメンモンスターを探そう
- 6月：押し花と海草アート
- 7月：水族館（竹工作）
- 8月：ストーンアートの置物
- 9月：ドングリてんとう虫バッチ
- 10月：紙漉絵はがき作り
（11月は森林文化科・丸太切り体験）
- 12月：クリスマスツリー
- 1月：ソテツのストラップ
- 2月：森里海ジオラマ工作
- 3月：サクラアート

2月のイベント案内（東大阪フレスポHPから）

イベント&ニュース

楽しく学ぼう！～森と海のジオラマ工作～

10歳以上

楽しく学ぼう！

～森と海のジオラマ工作～

◆ 時 間：11:00～16:00 ◆ 会 場：2階ユニクロ前特設会場
◆ 参 加 費：お一人様1回100円



■ 日時：2/10（日）11:00～16:00

■ 会場：2階ユニクロ前特設会場

■ 条件：お1人様1回100円

オカリナワークショップも同時開催！（参加有料500円～）

※イベントは予告なく変更・中止する場合がございます。
予めご了承下さい。

開催日時

2/10（日）11:00～16:00

場所

2階ユニクロ前特設会場

社会貢献 活動報告-3 東大阪フレスポ・イベント



ジオラマ

クリスマスツリー



社会貢献 活動報告-4 東大阪フレスポ・イベント



ストーンアート

チリメンモンスター



社会貢献 活動報告-5 小学校出前教室

子供たちの意見コメント

- ・ ドングリこうさくが楽しかった。
- ・ 葉っぱのしおりが作れてよかった。
- ・ 山と川の話おしえてくれて良かったです。
- ・ オナモミダーツがおもしろかった。

など概ね好評



社会貢献 活動報告-6 幼稚園イベント

門真市・大阪東幼稚園／ニコニコパークイベント

入場者:春(5月12日土曜)子供244人、大人198人 計442人

秋(11月17日土曜)子供270人、大人230人 計500人

コメント:(子供たち)・天ぷらもむかごごはんも美味しかった。

・工作も難しい所もあったけど楽しかった。

野草の説明



野草の天ぷら(大変です!)



今年度を振り返って

- 森海活動の4本柱としている活動はうまく機能した
- 活動内容が森海の理念から遊離したところもあり、精査が必要
- 森海科創設以来取り組んできた大阪湾生き物一斉調査は、一旦参加を見合わせ、今後は森海独自の活動として調査の継続を行っていく。そのために、科員の海の生き物研修会等に取り組む
- 組織体制が膠着化しつつある。組織体制の改革を図っていく。
- ここ数年、連環学学習が停滞している。これを踏まえ次年度の学習会等について検討する必要がある。